

JAQG 協賛メンバー訪問 ―ハシダ技研工業㈱様―

1. はじめに

航空宇宙品質センター（JAQG）は 2001 年の創設から 25 周年を迎えます。この記念企画の一環として、協賛メンバー様への訪問を開始しました。

JAQG では年に一度、活動報告会を行い、多くのメンバーの方にご参加いただいておりますが、各協賛メンバーの方の声を十分に拾い上げられていないのではないか、という問題意識がありました。本企画は、9100 規格の動向などについて率直な意見交換を行い、協賛メンバーの方の現場の声を拾い上げるとともに、IAQG や JAQG に対して親近感を持っていただくことを目的としており、話しやすい雰囲気となることを心掛けました。

2026 年 8 月 4 日、この企画の第 5 弾として、ハシダ技研工業株式会社様（奈良県奈良市下深川町 108）への訪問を実施いたしました。

2. ハシダ技研工業株式会社様のご紹介

同社は 1967 年創業、資本金 8,280 万円、従業員数 922 名（グループ全体では 1217 名）の会社です。創業者の故橋田寛様（前会長）が東大阪で創業され一代で築かれた会社です。

同社は金型製造を祖業とし、2010 年以降に M&A を繰り返して、今や全国及びタイ国に 31 か所の拠点を有する一大グループを形成しています。取り扱い製品も航空機部品からモーター製造、樹脂加工、精密バルブ、半導体搬送装置部品製造など多岐にわたります。

訪問した名阪工場は、1988 年に開設された同社の拠点工場で 100 名ほどが勤務されており、主にガスタービン部品、船舶用部品、農機具用部品や自動ドア部品に加え、航空機部品の製造を行っています。航空機部品については、COVID-19 の頃に撤退するサプライヤ向けの部品の転注を受けるようになり、少しずつ拡大しているとのこと。航空機以外の製品についても、加工が難しく受注先のない製品を積極的に受け容れているそうです。

M&A の経緯については、積極的な拡大戦略というよりは、技術力はあるが後継者不足に悩む会社を救済する形で吸収していったのが実情であるとのこと、前会長の志が偲ばれるところです。今回ご対応頂いた美麻様は品質管理者という立場で、グループ会社間を取りまとめる役目でご苦労されている様子でした。業種が多種にわたっており、まとめることが難しいものの、同時にシナジー効果も出始めているとおっしゃっていました。



創業者 橋田寛様の記念碑の前で

（左から）池宮氏、美麻氏（ハシダ技研）、古賀氏（島津）、濱中氏（住友精密）、城福（SJAC）

意見交換に合わせて工場見学もさせて頂きました。大きな工場ですが自動化が進んでおり、作業員はまばらな印象でした。

3. JAQG 説明



対面ならではのオープンでフランクな雰囲気のもと、担当者の実体験や言葉を交えた解説を行いました。

3.1 JAQG/IAQG 紹介（説明者：SJAC 城福）

IAQG/JAQG の活動概要、ボランティアベースでの運営体制、規格開発への主体的な参画について説明し、日常的な疑問や要望の窓口としての JAQG をアピールしました。

3.2 規格の最新動向（説明者：(株)島津製作所 古賀氏）

9100 規格の改訂動向を解説しました。特に、国家規格である JIS Q 9100 が今回の改訂では IAQG の民間規格としての IA9100 へシフトし、全世界的に発行時期を統一していく点について説明をしました。

3.3 9150 規格およびツール紹介（説明者：住友精密工業(株) 濱中氏）

IAQG が中小企業向けに開発中の 9150 規格概要を紹介しました。具体的な内容が定まっていないため、概念的な説明となりましたが、IAQG の動向についてご理解頂けたと思います。

4. 意見交換

4.1 9100 について

航空機の製造工程については、一度認証を受けると改善した方が良いと思っても、再認証を受けるまでの手間と時間が非常にかかることにストレスを感じるがあったとのことでした。具体的には同社の大阪工場の製造ラインを名阪工場に移設した際に、年単位の時間と手間が必要で大変だったとのことでした。

9100 については発注元からもこの認証を要求されることが多くなったとの印象を持っておられるとのことです。

4.2 9150 について

9150 の対象が中小規模の組織であり、9001 や 9100 とは独立した認証規格であることを説明しました。同社はすでに 9001 と 9100 の認証を取得しており、9150 認証を取得する動機は薄いとのことでした。しかし、小さな取引先に航空機関連部品の発注をしようとしたときに、9001 だけでは不足であるが 9100 は過剰であるという状況になれば、9001 と 9150 という選択肢はあるかもしれないとの議論がありました。

4.3 IAQG Podcast や AIMM、OASIS Insight の紹介

9100 の改定内容の説明中、APQP はあまり馴染みのない用語であるとのことだったので、理解を深めるためのツールとして IAQG の Podcast (Quality Horizon) をご紹介しました。Quality Horizon では担当者へのインタビューなどで、APQP や 9150 など含む IAQG に関わる広範な話題について、担当者の肉声を聞くことができます。JAQG ではこの Podcast を日本語に翻訳し、AI を用いた日本語音声版も作成しており、是非ご活用いただきたい旨をお伝えしました。

https://jaqg.sjac.or.jp/iaqg_podcast.html

また、自社の 9100 規格への適合性について確認する AIMM (Aerospace Industry Maturity Model) や、OASIS 登録料金の値上げの要因ともなっている OASIS Insight についても紹介しました。OASIS Insight は認証審査時の NCR などの情報から、同規模の組織の中で自社がどの辺りの位置にいるかを示し、改善の指針を与えるツールで IAQG が普及を図っているものです。

4.4 JAQG 活動報告会について

活動報告会にはご参加いただいているものの、現地参加の場合も人数が多く気軽に発言しにくく、オンラインではさらにタイミングが難しいとの正直なご意見を頂きました。現地会場では、会の終了後に時間をとって発表者に個別に質問を行う時間を長く取るなどの対応について検討します。

4.5 航空機の需要予測について

ごく簡単にですが、日本航空機開発協会（JADC）が発表している航空機需要予想などを元に、今後の需要予測などについて話題提供をいたしました。普段は需要予測のようなテーマに触れることは少ないとのことで、良い機会になったかと思います。

5. ハシダ技研工業(株)様からの声

お忙しい中 JAQG 様が来社いただけるとのことで緊張いたしました。しかし実際来社されたら話しやすい雰囲気をつくってくださり、普段お聞きできないような些細な疑問にもお答えいただき理解を深めることが出来ました。対面でお話をする機会を頂けたことで JAQG さんが身近に感じる事が出来ました。当社はまだまだ勉強中ですのでごく有意義な時間を過ごせて大変ありがたかったです。

6. 最後に

お忙しい中お時間を割いていただいたハシダ技研工業(株)の皆様には、改めて感謝申し上げます。

顔を合わせて話ができただけで、JAQG への親近感を持っていただき、要望等を伝えやすい環境づくりができたのであれば幸いです。今回は名阪工場を訪問いたしましたが、他工場も独自の強みを持っていそうなポテンシャルを感じました。企業間の相互交流やネットワークづくりの契機としても非常に有意義な機会となりました。

以上